

(様式第4号) 交流・文化施設等運営管理計画検討委員会 第5回美術館検討委員会概要

1	会議名	交流・文化施設等運営管理計画検討委員会 美術館委員会
2	日時	平成23年8月5日(金) 午後2時10分から午後3時50分まで
3	会場	上田市役所本庁舎6階 大会議室
4	出席者	滝澤委員長、結城委員、小山委員、宮下委員、山崎委員、小林委員
5	市側出席者	伊藤交流・文化施設建設準備室長、土屋文化振興課長、室賀交流・文化施設建設準備室長補佐、若林交流・文化施設建設準備室長補佐、堀内文化振興課地域文化係長、小笠原山本鼎記念館主査、掛川主査、徳田主査、藤城主任
6	公開・非公開等の別	公開・一部公開・非公開
7	傍聴者2人	記者3人
8	会議概要作成年月日	平成23年8月8日

協議事項等

1 開会(伊藤交流・文化施設建設準備室長)

2 委員長あいさつ

委員長: 前回(第4回)の開催から間が空いたが、その間、市では運営管理計画案と基本設計案について市民説明会を開催した。今回はその結果を踏まえて議論を進めたい。

3 報告事項

・市民説明会の開催結果について

事務局:(資料説明)

委員長: 私達は、運営管理計画を市民代表と専門家の立場から検討し、どのように美術館を運営し、より実のあるものにするか、そして、多くの市民から愛されるものにするかということについて答申を出す義務がある。今回、市民説明会の結果を踏まえ、運営管理計画の素案ができており、これについて議論したい。

4 協議事項

・運営管理計画検討結果報告(素案)について

事務局:(資料説明)

委員長: まず1ページ目「交流・文化施設の基本理念」について、これは整備計画の内容を反映させたものであり、あえてこの運営管理計画の中で変更する必要はないと思うがどうか。

委員:(了承)

委員長: 次に、2ページ目の「理念に基づく目標」と3ページ目の「目標を達成する手段」についてはどうか。

委員: 3ページ目の子どもの育成事業について、これは非常に重要な要素であり、ホールには音楽家や音楽の専門家達との触れ合いという記述があるが、美術館の方でも、例えば子どもアトリエなどで作家との触れ合いがあると良いと思う。

委員: 私も賛成。音楽だけではなく、現実に活動している美術家や工芸家と子ども達が触れ合うというのは素晴らしいと思うので、ぜひ計画案に入れたい。理念や目標という柱の中に、コミュニケーションという言葉が必要だと思う。例えばワークショップにおいても、その体験が個人的体験で終わってしまう例が多く、交流・文化施設と言っている以上は作家とのコミュニケーションや、教える人と教えてもらう人とのコミュニケーションが大切。子どもに限らず、例えば指導者が地元の工芸家で、それを習う方が地元の主婦であるとか、そこに同じクラスにいる人同士のコミュニケーションができるなど、また子ども達同士のコミュニケーションが生まれるなど、そうしたことが実現すれば、未来に繋がる展望が開けるのかなと思う。

委員: 佐久市立近代美術館では、子ども達に向けて様々なワークショップが増えてきている。また、作家でもある公募展の審査員と応募者との交流がある。審査員は館蔵作品の作者で、全国的に活躍され、かつ長野県に縁のある方をお願いしている。審査後の授賞式では、審査員の作家と応募者が話せる機会を設けており、審査講評も応募者一人ずつに送っている。そう

いう点では現役の作家と美術に関心のある、特に作品を作っている地域の方との触れ合いが生まれている。

委員：私が所属している会では県展や東信美術展をやっているが、現在はグループの仲間同士で発表しているという状況に近い。今後は、それをもう少し広げて様々な団体や人々と交流できる、そういう発表の場としてこの施設を考えていかなければならないと感じている。

委員長：市民協働といえはまさしくコミュニケーションの問題でもあり、美術というのは作品を介して、あるいは作家を介してのコミュニケーションそのものであると思う。これを柱というか核にして強調していきたい。では、美術館の細目に入りたいが、その前にホールについても何かご意見があればお願いしたい。同じ敷地内にある施設であり、美術の委員がホールについてこんな視点を持っているという事は大切。特にホールは「東信濃の新たな文化芸術活動の拠点を目指して」いることから、東信州の核としての文化施設という観点でご意見をお願いしたい。ご意見をいただければホール部門で意見が反映できるかと思う。

委員：この施設は、ホールと美術館が一体になっており、ここで意義深いことは、芸術を通して21世紀に生きる子ども達を育成するという。一体となって芸術による教育を目指していくという深い考えが必要。それぞれがそれぞれで進めるということではいけない。

委員長：美術館の方は例えば山本鼎という存在があるため、比較的理念というレベルではまとめやすいが、ホールの方はなかなか理念レベルのまとめ方が難しい。芸術的な全体を統括するというか、一本筋の通ったものが見出せれば、より素晴らしい複合施設になると思う。

委員：素案の内容は良いと思うが、実際の運営を想定したとき、一体誰が何をやるかという具体的な姿がなかなか見えてこない。今の時点から、具体的に開館記念事業としてホールではどういうことをやるのか、美術館ではどういう展示をやるのかという、具体的な検討を進めていく必要がある。

委員長：運営管理計画の段階で、具体的な事業展開を明文化するのは難しいかもしれないが、何か具体的なご提案やご意見があれば引き続きお寄せいただきたい。次に6ページ「美術館施設の事業計画」についてはどうか。

委員：「21世紀の美術教育の聖地を目指して」とあり、目指すのは良いが、歴史的な大転換に相当する内容が必要。それは一体何なのか、徹底的に研究していかなければならない。開館記念展覧会では、「日本における近代美術教育の聖地信州上田」というタイトルのもと、「山本鼎・石井鶴三が目指したもの展」と「21世紀への希望、子どもは天才展」などといった展示をセットで組み合わせるのも一つの方法だと思う。もちろん、誰がどのようにやるかということとは非常に重要だが。

委員長：オープニング記念展は通常、1年程度の間で何本も開催することが多く、一番本格的な展覧会は3本目にくるということもある。美術教育、あるいは歴史的な経過を一度見直すというような展覧会は当然、核となる事業に入ってくると思う。

委員：私も山本鼎の精神をオープニングで大きく打ち出すことは良いと思う。自由画という考え方は素晴らしく、子どもの自由画も大人の自由画も一緒に展示できるような企画ができればと思っている。オープニングのイベントでたまたま来館していた人に参加してもらい一つの作品が出来上がるという事業もコミュニケーションという視点で良いと思う。それと、農民美術、つまり工芸やクラフトという視点も大切にしたい。農民美術というのは、それこそが生活に根ざしていて、自分たちが作ったものを周りの人達に使ってもらえるというような、そういうコミュニケーションにも繋がる。オープニング記念としては、自由画というテーマで1回、農民美術というテーマで1回という形で、これら二つを柱に据えられれば良いと思う。

委員長：近代日本では、絵画・彫刻・建築などが上位の芸術や美術であって、工芸などはそれより一段下という位置づけになってしまった。これは19世紀のヨーロッパがそうであったことからの影響であるが、その点から考えれば、山本鼎は工芸の解放者でもあったと言える。山本鼎が幅の広い人間であったという視点でオープニング記念に加えていければと思う。

委員：市民による市民のための蚤の市などをオープニング記念で開催すれば、作品を発表したい方と作品を購入したい方が両方集まり、しかもコミュニケーションもできて集客にも繋がる。そういう一角をぜひプロムナードでできればと思うが、単なるバザールになってしまうよう、教育との連携という考えを生かし、例えば、木工細工で作った子ども用のオリジナル

積み木などを発表してもらうなど、ある程度の決め事の中でできれば良いと思う。

委員長：一言で山本鼎の理念を具現化すると言っても、山本鼎自身が幅広い人であることから、様々な視点から研究し、それを生かした企画にしていこうということが重要。6ページについてはもう少し山本鼎の精神に関して若干強調したい。次に7ページ。これは具体的な各事業のイメージであるが、同時にミュージアムショップについても触れてある。何かご意見があればお願いしたい。

委員：(特になし)

委員長：8ページの総合的事業展開についてはどうか。

委員：美術館でワークショップや子ども向け美術教室などを開催することとなっているが、ホール部門の方こそ練習が毎日必要だと思う。音楽活動などを行っている人は、練習場所に困っていると聞いており、そういう点でホールなどが活用されれば、施設に活気がみなぎる一つの要素になる。

委員：練習場として積極的に活用されれば良いと思う。文化施設がそろっている松本ですらなかなか練習会場が取れないと聞いており、熱心な活動をしている方たちにとっては非常に良い場所になると思う。市内の各施設で練習をしている人達や団体が交流する機会も設けていけば、それぞれの施設が活性化していくと思う。

委員長：市民説明会の後も市民の方々からご意見をいただきそれを本日の資料に反映している。委員の皆様においても、こういった会議の場に限らずご意見をいただき、次の原案に反映させてまいりたい。

委員：施設が円形、サークル状の設計になっていることから、音楽などと美術が一体となる必要があると思う。したがって、ホール部門の方にも美術的な雰囲気、例えば大ホールのホワイエなどに郷土作家の作品を置いて、美術的な雰囲気を出すということが必要でないか。美術館の方でも、音楽会に行ってみたい、音楽的な雰囲気というかそういうものを感じられる施設であるべき。

委員長：まさしく本質的な部分。私達は文化施設の委員会ではなくて、交流・文化施設の委員会であり、最初にコミュニケーションの強調が足りないのではないかと、柱にしっかりすべきではないかとのご意見があったが、これが根幹であり柱であり大切なこと。それが確認できただけでも今回の委員会は非常に意義深かったと思う。またご意見があれば頂戴していきたい。

## 5 その他

事務局：次回の会議は9月初旬を予定している。日程については改めて通知したい。

委員：(了承)

## 6 閉会(伊藤交流・文化施設建設準備室長)